二　関係者近詠

醤油屋の祖母の伽藍蕗黒極む　眞希子
向日葵や狭き地球に時差ありて　仝
夜伸びる変声期の子胡瓜の子　仝
結婚と嫁ぐは異とや花人参　仝
片陰の蔭濃きところ友を待つ　弘子
涼しさや白馬の房尾揃へられ　仝
夏の池以呂波楓の水陽炎　仝
ぐいと張り張る舫ひ綱大南風　仝
明易し妻のリズムをわがリズム　青史
心房に細動のあり籐寝椅子　仝
ひんぴんと脈飛んでゐてけふ大暑　仝
独り寝の閨房なれば裸なり　仝
―「森の座」１０月号
稲の波弥生の息吹今もなほ　盛雄
秋の夜や老師遺せし百句読む　仝
天上の模様替えかないわし雲　仝
災害を乗り越え乗り越え鰯雲　健介
嘘と無知揃えば恐し曼珠沙華　仝
秋の検診白衣恐るる妻なりき　紀久男
昼暗きシャッター通り秋の風　仝
救急車のサイレン止みぬ鰯雲　仝
―「きさらぎ」９月

亡妻や未だ悲しき盆支度　規雄
―「ＮＨＫ俳句」１０月号　岸本尚毅選
昼顔の花は厭々咲いている　仝
―「ＮＨＫ俳句」１０月号　西村和子選
屋根裏に鴉の足音溽暑かな　９/５　盛雄
富士山頂の消印届く夏休み　９/１２　仝
伊丹郷に美味し酒あり鬼貫忌　９/２６　仝
顔面に刃か風の青芒　１０/３　仝
カナブン死す新聞受けを棺にして　１０/１０　仝
―毎日新聞兵庫文芸　若林京子選に５週連続
ペガサス座カジノで国は救へない　正明
鰯雲憲法改正あると云ふ　仝
高原の風むらさきに松虫草　允章
秋の蝶夜はいづくで眠るやら　仝
池の面に影きはやかや新松子　仝
竜淵に潜みて深む静寂かな　仝
去りゆきし日の下開山桐一葉　盛雄
この秋は傘寿の賀なり酒を酌む　規雄
淋しきは山百合強く香るとき　啓子
松茸を鼻と舌とで喰らひけり　千恵
酒の欲し松茸入りの幕の内　紀久男

三　「ＮＨＫ俳句・夏井いつきの季語道場」ＮＨＫ出版¥１，４００　２０１８/９/１５
近所の図書館にお薦めの新刊コーナーがあり、この本を手にとってみました。なるほど面白く納得出来る内容でしたのでご紹介します。
　季語の持つ要素を視覚・嗅覚・触覚・味覚・連想力の六つの成分に分け、数値化して六角形のグラフに表現。五感に連想力を加えた所が味噌です。そして類句・類想脱却のカギとしてオリジナリティとリアリティの大切さを訴えております。

四　ことし三月廃刊した「萬緑」の大幹部で草田男の直弟子であった渡邊啓二郎さん（８９才）処女句集「草上集（そうじょうしゅう）」（本阿弥書店２０１８/７/３１¥３，０００）より小生好みの作品を抄出してみました。

戦終りし飢軽やかや風知草
体当たりしてくる揚羽君は誰だ
ルイ・ジェベもそを見し友も梅雨の記憶
出稽古が来てゐる二階花石榴
二階から来て不機嫌に西瓜食ふ
をみなへし静かに今日の日を移す
明月や竹原はんといふ小町
月差すや物を置かざる舟住ひ
粋てふは身を責むること出初式
隈をとる鏡の色や初芝居

白粉が走る奈落の寒さかな
霜踏んで明治の人を墓に訪ふ
人形町「うぶけや」の主人よつく聞け
もの売つて初苦虫の主かな
語らひやこの夜気はもう春のもの
啓蟄や空もごもごと痒いとさ
干鱈むしられ学寮の夜沸騰す
代々を住み衰へて夕の藤
佳きことを聞く日や松は芯立てて

平成三十年年十月十八日

以上　紀久男記